問 奥四万十博への取り組みは

答 商工会と連携

田中

2016奥四万十博が「四国カルストから土佐の大海原へ」のタイトルのもと開催される。津野町には全国に誇る緑豊かな自然や観光資源がある。今後の取り組みや意気込みは。

池田町長

高幡5市町と商工会関係者で構成し協議を重ねる。高幡地域の観光・食・体験を観光商品として全国にPRしていく。交流人口の拡大により地域の経済効果を目指していく。

黒川産業建設課長

今年度、県は「食」で観光振興している。町としても商工会と連携していく。町内の商店、いわゆる民力の活用なくして継続した取り組みはできない。順次取り組んでいく。

問 ふるさと納税の今までの状況は

答 平成20年度から42件

田中

ふるさと納税された基金は①人づくり事業②働く場づくり③環境保全事業の項目の中で生かせるが、どう使用され活用されたか。基金は支出のない年もあるが。

池田町長

納税していただいた方のふるさとへの想いを受けとめて活用している。使用については町長判断のうえで財政協議をして議会の議決を得ている。臨時的に思いきっての使用もあるが、効果的なものにしなければならない。

下元総務課長

平成20年度から今年8月末までの寄付金額は、1千269万4千円、件数では42件である。

基金については意向の強い事業に充当している。鮎の放流事業に平成21年度から今年度まで240万円を充当した。残りの寄付金は納税基金に積み立てしている。

アユの放流にはふるさと納税が活用

問 地域おこし協力隊の現状は

答 9月より2名受入

田中

昨年度は2名の隊員の任期が終わった。反省点・課題を克服して二期目の隊員が活動しやすいよう明確な目標をもつべきだ。今年度の現状はどうか。

池田町長

平成23年度から一期生を受け入れ、現在隊員はそれぞれ本町に定住していただいている。受け入れから様々な課題があった。これらの課題を反省して、今年9月から2名の協力隊員を受け入れている。